日本共産党 和歌山市会議員
ひめだ高宏ニュース
NO.1388
'22.5.17

国民平和大行進も久しぶり

目覚めた時に壁の時計は10時を指していました。つ久しぶりの平和行進に寝過ごしたぁ」とあわててテレビをつけると、まだ金曜の夜でした。5月14日（土）10時10分、市役所前の出発集会が始まりました。メーデー同様、平和行進も3年ぶりとのこと。集会では日本共産党市議団から坂口ゆ美子議員があいさつ。前ひさしさんも共産党のノボリを持ち、私、ひめだもノボリとメーデーで作ったプラカードを持って参加。平和行進は市役所～けやき大通り～大新小～北ぶらくり丁～中ぶらくり丁～京橋プロムナードまで。途中で腰が痛くなりました。

私、ひめだと奥村のり子県議

小雑賀のオークワに期日前投票所を新設

5月12日、和歌山市選挙管理委員会事務局は、小雑賀のオークワセントラルシティ店（小雑賀805－1・ダイエー跡地）に7月10日執行予定の参議院選挙より期日前投票所を新設すると発表しました。

新型コロナウイルス感染の拡大防止や有権者の投票環境の向上を図るために、庁舎内の書籍売り場横に設置する予定です。設置期間は、参議院議員選挙公示日翌日から投票日の前日までで、時間は午前10時から午後8時までということです。

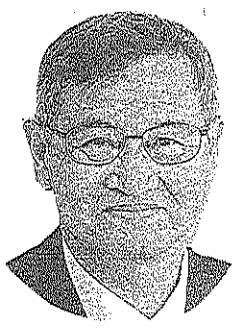
南ブロックでは紀三井寺の南コミュニティセンターに続きこつめの期日前投票所となり、市内では8か所となります。開設時間は商工会議所が8時半から、イオンとオークワは10時からあとのこか所は9時からです。終わりの時間は共通しており、午後8時までとなっています。

今週のフツーの人々（その334）

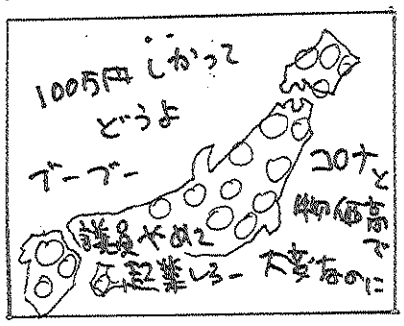
ズレた金銭感覚

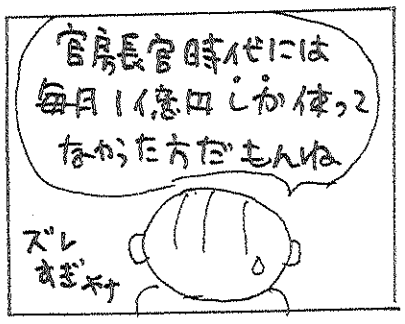
細田博之衆院議長が都内で開かれた自民党参院議員の政治資金パーティで「議長になっても毎月もらう歳費は100万円しかない」「上場会社の社長は1億円は必ずもらう」と発言し問題になり、おわび会見で「怒られて反省している。好きなことを言ってきた議員時代と議長の立場は違うと認識を改め発言を慎む」と発言そのものに反省を示さず、余計に不信感を買っています。

細田氏は東大卒の通産官僚で領収書不要で1カ月1億円もの官房機密費を管理する官房長官も務めました。参院広島で河井夫妻が県内の首長や議員40名に配った買収資金に使われた疑惑を中国新聞は指摘しています。千葉でも群馬でも京都でも同様の事件が報じられるなど自民党の金銭感覚のズレには驚くばかりです。


ひめだ高宏

フツーの人々〈1171〉





日本共産党女性後援会が塩屋で宣伝

5月15日(日)午後1時から日本共産党女性後援会が塩屋でハンドマイク宣伝をするので来てほしいとのお誘いがあり参加させてもらいました。「姫田さんは歩きながらマイクで話して。止まった所の演説は私たちがします」とのことで、塩屋5丁目のわが家から4丁目、打越、1丁目と回りました。高松後援会の男性陣を呼びよせていたのはさすがです。マイク支援はない方たちは「ウクライナに平和を」の日本共産党のビラを配ってくれました。終わった時に上がが笑いました。

本ってホント おもしろい

永井みみ著「ミシンと金魚」(集英社)は会話に「」が付いてないので読み始めは少し戸惑ったもののすぐ慣れました。認知症のカケイさんと介護施設やルパーのみっちゃん達?カケイさんが語る壮絶な人生に圧倒されました。

川上未映子著「春のこわいもの」(新潮社)の帯に「東京で男女5人が体験する甘美きわまる地獄めぐり」と書かれていますが、何が怖いのか分からないくらい年取ったことを実感。

こんにちは 日本共産党です

沖縄本土復帰50年

沖縄は半世紀たった今もなお日本の国土面積の0.6%に日本の米軍基地の7割が集中しています。これは韓国に置かれている米軍基地の1.5倍にもなり、世界で最も米軍基地が集中する異常な事態が続いています。

1945年の沖縄戦では約20万トンの爆弾が投下され、未回収の不発弾は1900トンを超え、その処理には100年かかると言われています。主戦地だった沖縄本島南部の地中には約2800柱の戦没者の遺骨が眠っています。その遺骨の混じった土砂を辺野古の工事で使用することは許されません。普天間基地の無条件撤去、辺野古新基地建設反対で沖縄県民と連帯しましょう。

前 ひさし
(参院選挙区)

潮流

(22.5.15日刊赤旗)

ときおり土砂降りの雨が降る、どんよりとした空。ふだんはにぎわう国際通りに掲げられた「日の丸」もしぼんでいました。「県民の心は鉛のように重い」。デモ行進ではそんな声も▼1972年5月15日。沖縄が本土に復帰した日の石川元平さんの記憶です。教職員組合の一員として復帰運動にかかわり、屋良朝苗・琉球政府主席の秘書も務めた石川さん。84歳になるいまも悔恨の思いを口にします▼われわれが求めたのは、核も基地もない平和な沖縄、日本の憲法のもとで人権が保障される復帰だった。琉球政府がまとめた建議書にも県民の願いが込められていた。ところが、上京した屋良主席がそれを渡す直前に自民党政権は返還協定の承認案を強行採決してしまったー▼「沖縄県民の反持ちと云うのはまったくへいりの様にふみにじられるものだ。沖縄問題を考える彼等の態度、行動、象徴であるやり方だ」。へいりとは破れた履物。当日の屋良日記から憤激が伝わります▼それから半世紀。デニー知事がつくった新たな建議書にも「平和で豊かな沖縄の実現」が訴えられ、辺野古の米軍新基地建設に反対する運動は日々続いています▼最北端の辺戸(へど)岬に立つ祖国復帰闘争碑。この碑は喜びを表すためではないとして、こんな一文が刻まれています。「闘いをふり返り、大衆を信じ合い、自らの力を確かめ合い、決意を新たにし合うためにこそあり、生きとし生けるものが自然の摂理の下に生きながらえ得るために警鐘を鳴らさんとしてある」

しんぶん赤旗 日刊紙・日曜版の普及にご協力を。